

追加構成文化財

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
④	こみなとじょうあと、じょうけい 小湊城跡と城慶寺	未指定	来島海峡に面した丘陵に築かれた村上海賊の城郭。関ヶ原合戦後も、今治城が築かれるまでの間、藤堂高虎が繋ぎの城として重要視したとされる。城慶寺はその城域にあり、来島村上氏ゆかりの寺と伝わる。	今治市

【詳細】

◆小湊城跡（こみなとじょうあと）

- ・今治平野の北端、現在の湊町に位置し、来島海峡に面した標高約 27mの丘陵が城跡の推定地。
- ・城や港の存在は、以下の中世文書や江戸時代の編纂物、絵図等で確認できる。
- ・享禄 4（1531）年には、伊予の守護である河野通直が村上山城守なる人物を伴って、小湊浦から出港し、京都へ向かっている（「大山祇神社文書」）。
- ・元亀 2（1571）年には、村上武吉が、家臣の合戦での働きに対して小湊を与えようとしている。
- ・天正 13（1585）年とされる史料では、村上武吉・元吉が小湊城の扱いについて話題にしている（「屋代島村上文書」）。
- ・天正 14（1586）年、秀吉の四国平定によって伊予は小早川隆景に与えられた。その際、不要な城の破却が進められたが、小湊城は、鹿島城と来島城とともに、残された 10 城の一つに数えられた（「浦家文書」）。
- ・関ヶ原合戦の後、藤堂高虎が入部し、今治城を築くまでの間、繋ぎの城として小湊城が重要視されている（『高山公実録』）。
- ・今治城の「正保城絵図」に「小湊山」の記載がある。
- ・江戸時代中期に、松山藩の兵学者野澤象水が描いたとされる「伊予国嶋々古城図」に「湊古城 来島枝城」の記載がある。

◆城慶寺（じょうけいじ）

- ・小湊城の城域に入ると思われる場所に建立されており、同寺が城跡の保存や普及に努めている。
- ・来島村上氏の菩提寺である大通山安楽寺の末寺と伝わる（『今治拾遺』）。
- ・16 世紀中頃に、大竜存守が開山したとされ（「日本洞上聯燈録」）、大竜和尚は安楽寺の僧であったとも伝わる。

【まとめ】

小湊城は、来島城の近くに立地することなどから、来島村上氏ゆかりの城と考えられてきた。しかし、一次史料（当時の史料）をひも解くと、能島村上氏とも深いつながりがあることが判明した。村上海賊ゆかりの城跡であることから、日本遺産「村上海賊」の構成文化財に追加認定された。隣接する城慶寺は来島村上氏ゆかりの寺と伝わり、小湊城の情報発信・普及啓発を行ううえでも重要な役割を果たしていることから、一体の構成文化財とした。